

タイ自動車市場月次統計（2015年11月）

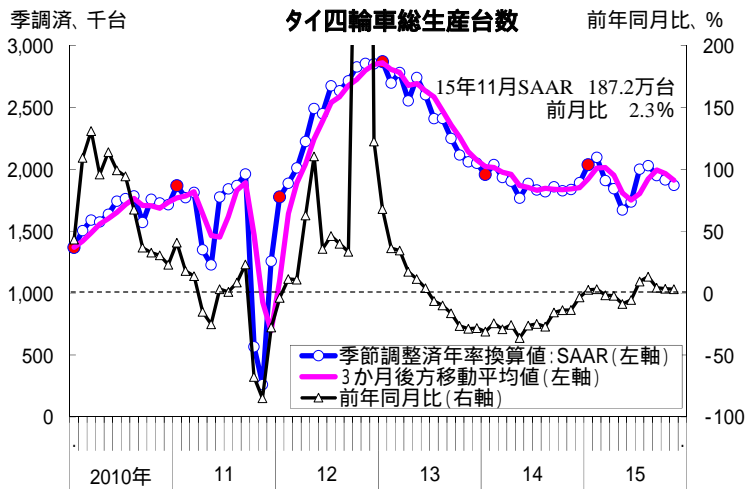
輸出減速により減産が続くが、景況感改善に伴う内需回復の兆しに要注目

11月国内販売台数は31か月ぶりに前年比プラス転換

- ・タイ工業連盟(Federation of Thai Industries)が発表した2015年11月の四輪車生産台数は、前年同月比3.2%増と5か月連続で前年同月を上回ったものの、季節調整済年率換算値(当社試算、以下SAAR)は前月比2.3%減の187.2万台と3か月連続で減少した。3か月後方移動平均は2か月連続で減少し、減産基調を形成しつつある点は懸念材料である(図表1)。
- ・国内生産の減速の背景には、10月に続いて11月も輸出が減少したことがある。11月の輸出台数のSAARは前月比7.2%減の118.9万台と2か月連続で減少し、前年同月比も5か月ぶりにマイナスとなった(図表2)。なお、15年1~11月の輸出台数の平均SAARは121万台と、14年実績112.8万台を上回っている。12月の輸出台数(SAAR)が11月並みとなれば、15年の輸出台数は120万台を超え、過去最高記録(13年の113万台)を更新する。もっとも、11月の輸出台数(SAAR)は120万台を下回っているため、今後の動向には要注意である。
- ・輸出減速という懸念材料がある一方、11月の国内販売台数は前年同月比4.6%増と31か月ぶりにプラスに転じた。7月以降緩やかな増加トレンドを形成している国内販売のSAARは11月が前月比7.6%増の87.5万台となり、10月に続いて年率80万台を超え、堅調に推移した。(図表3)。
- ・タイ商工会議所大学が発表している消費者信頼感指数は、10月に10か月ぶりの上昇となった後、11月も前月を上回った(図表4)。9月以降に相次いで発表されているタイ政府の積極的な経済対策が消費者の新車購買意欲を高めていることが、国内販売の持ち直しに繋がっていると考えられる。
- ・3ページにて、セグメント別の販売台数の推移を示しているが、注目したい点は、全車両セグメントにて、販売台数(SAAR)が2か月連続で増加していることである。足元で販売台数が持ち直している背景としては、一般的には、16年初めに自動車新税制^(注)が導入されることにより、物品税が増税されるPPV(ピックアップトラックベースのSUV)の駆け込み需要が発生していることが指摘される。しかし、税制改正の影響が限定的なその他の車両についても販売が増加していることから、根本的な要因として、前述した景況感の改善が販売台数の増加に繋がっていることを認識すべきであろう。
- ・もっとも、内需の持ち直しは力強さを欠いており、輸出の減少を十分には吸収しきれていないため、結果として生産が下向き始めているのが現状である。増税前の駆け込み需要発生の可能性もあり、国内販売が本格的な回復期に入ったかどうかを現時点で判断するのは引き続き時期尚早と考えるが、タイ政府による相次ぐ景気刺激策をきっかけにして、長らく低迷していた国内販売に変化の兆しがでていることは好材料であり、今後も国内販売の動向にはより一層注視していきたい。

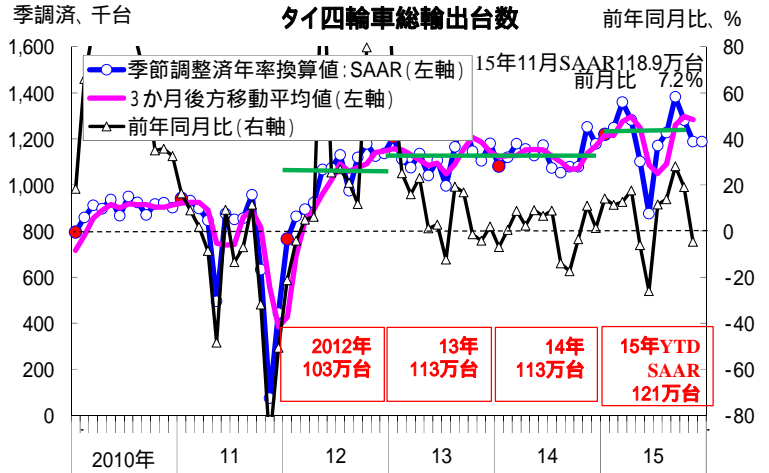
(注)16年初導入予定の新自動車税制(物品税の変更)については、11月27日発行のタイ自動車市場月次統計(2015年10月)の3~4ページを参照されたい。リンク先：<https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/TH1510.pdf>

図表1 11月生産台数は3か月連続の減少



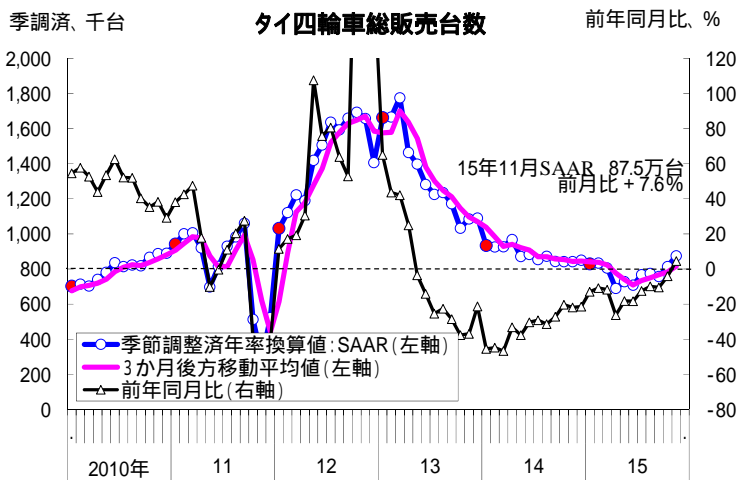
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数は2か月連続の減少



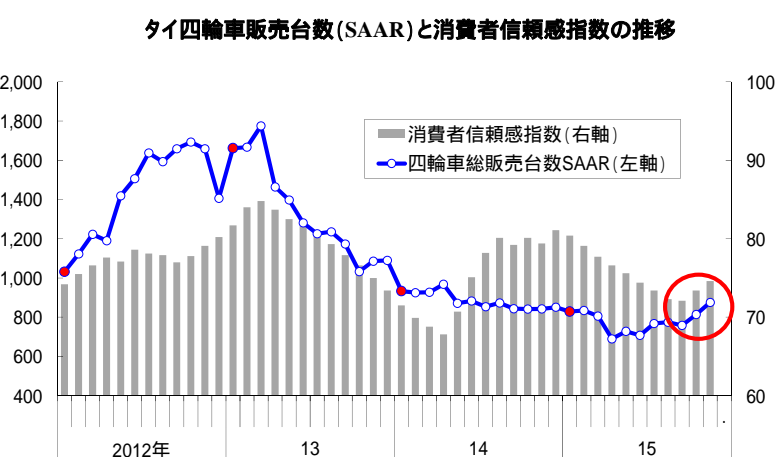
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 11月国内販売は31か月ぶりにプラス転換



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表4 消費者信頼感指数は2か月連続で上昇



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industries, University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

増税前の駆け込み需要発生の可能性がある PPV 以外の車種も国内販売は増加基調

- タイでは 2016 年初に新物品税制が導入される予定であり、物品税率（工場出荷価格ベース）の決定基準がエンジン排気量から、二酸化炭素（CO2）の排出量ベースに切り替えられる。新税制での最大の注目点は、PPV（ピックアップトラックベースのSUV）に対する物品税率の引き上げであり、同車種ではCO2排出量に関わらず、物品税が確実に引き上げられる。従って、市場ではPPVの駆け込み需要の発生が足元の国内販売の持ち直しの牽引役と考えられている。
- しかし、筆者はこの駆け込み需要の発生以外に、前述の景況感の改善も販売の押し上げに寄与していると考え。なぜなら、11月のセグメント別の販売動向をみると、全車両セグメントにて、販売台数（SAAR）が2か月連続で増加しており、税制改正の影響が限定的な車種の販売も増加しているためである。
- 図表5はセグメント別の国内販売台数の推移を表している。PPVを含むピックアップトラックの販売台数（SAAR）は確かに前月比10.1%増と大きく増加しているが、税制改正

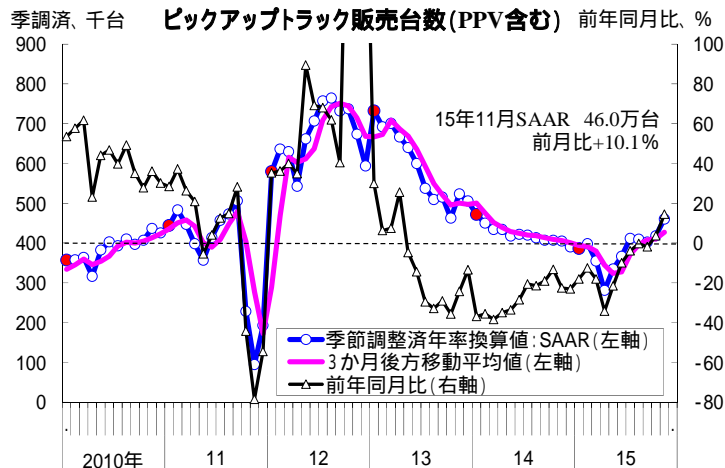
の影響が限定的なSUV(乗用車ベース)も、11月の販売台数(SAAR)は前月比38.2%増と2か月連続で大きく増加している。ホンダ(代表車種は「HR-V(日本名ヴェゼル)」、「CR-V」)や、日産自動車(「エクストレイル(含むハイブリッド版)」、「ジューク」)、マツダ(「CX-3」)といったメーカーが好調なSUV販売を牽引している。

- ・その他セグメントでは、乗用車や貨物車・バスの販売台数(SAAR)も2か月連続で増加している。

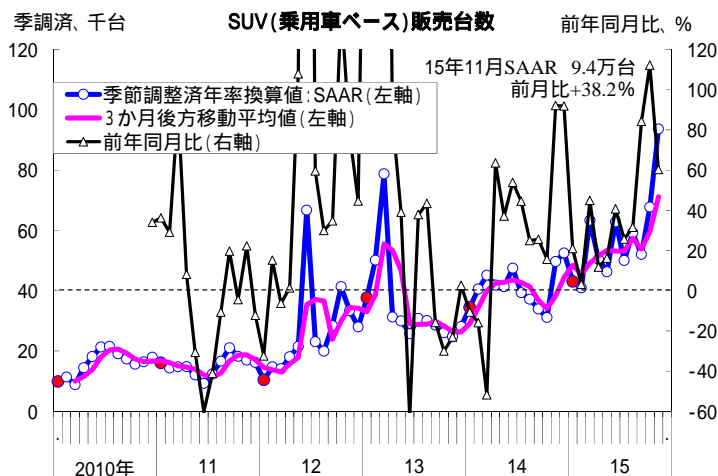
図表5 PPVのみならずその他セグメントの販売台数(SAAR)も増加基調



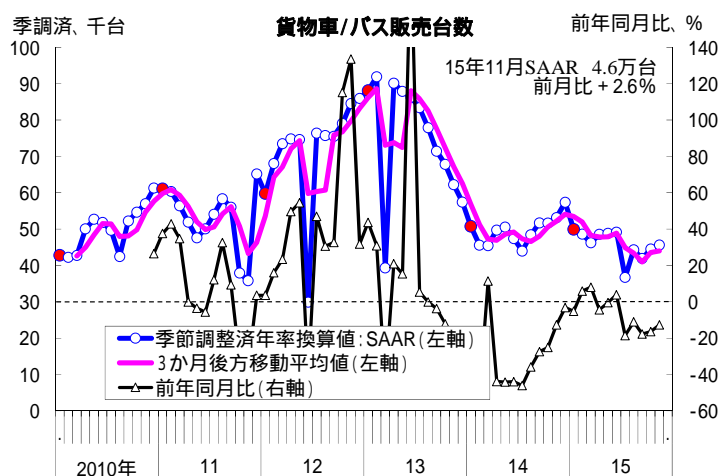
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Toyota Motor Thailandのデータを基に作成



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Toyota Motor Thailandのデータを基に作成



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Toyota Motor Thailandのデータを基に作成



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Toyota Motor Thailandのデータを基に作成

担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎

Tel: 045-225-2375

Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。